

## 絵本を活用した規範意識育成のあり方について

二階堂年恵 (広島文化学園大学)

合原 晶子 (広島文化学園大学)

### 1. はじめに

幼児期は、信頼や憧れをもって見ている周囲の対象の言動や態度などを模倣したり、自分の行動にそのまま取り入れたりすることが多い時期である。幼稚園教育要領によれば、この対象は、初めは、保護者や教師などの大人であることが多いがやがて、幼児の生活が広がるにつれて、友達や物語の登場人物などにも広がっていく。このような幼児における同一化は、幼児の人格的な発達、生活習慣や態度の形成などにとって重要なものであると示されている。

つまり、幼児期においては、保護者や教師、友達のみならず、物語の登場人物への同一化による態度形成がなされており、絵本を活用して規範意識を育成することは、幼児が自己認識を深め、社会的なルールや価値観を理解するのに有効な手段であると考えられる。

本発表では、絵本を活用し、幼児への規範意識の育成のあり方について検討する。

### 2. 対話形式の読み聞かせと登場人物の行動についての考察

まず絵本の選定時に大切になってくるのは、膨大な数ある絵本の中で、園児にとって適した内容であり、規範意識を育む価値観や行動が描かれているか、また、幼い幼児たちにとって理解しやすい挿絵やシンプルな言葉で表現されているかが重要である。読み聞かせの時に、絵本のストーリーを通じて子どもたちと対話しながら、物事の良い・悪いや、正しい・間違っているといった規範意識を掘り下げていく。また、登場人物の行動や決断について、幼児たちと一緒に考え、どうすれば良いか、どうすればより良い選択が出来るのかを示唆をすることである。登場人物の気持ちや行動を理解し、自分の立場に置き換えて考えることを促したり、規範的な行動が描かれた後に、子どもたちに同様の行動を模倣させる機会を与えることである。つまり、登場人物への共感と、模倣の機会の提供である。

### 3. 『ハーメルンの笛吹き』(グリム童話)の場合

例えば、『ハーメルンの笛吹き』では、街中にネズミが増え、それを退治したものに、褒美をやるうと言われ、ハーメルンの笛吹きは、笛を吹きながら街中のネズミたちをおびき寄せ、川の中まで連れていき、溺死させ、街中のネズミを退治した。にも関わらず、「たかが笛を吹いただけじゃないか」と言われ、結局褒美の金を貰うことが出来なくなった。そこで笛吹きは、今度は笛を吹きながら街中の子どもたちをおびき寄せ、今度は街中の子どもたちを全員殺してしまうという物語であるが、幼児たちは、この物語の中に出てくる主人公や登場人物に共感的理解や自分の立場に置き換えて考えたりすることで、「約束は守らなければならない」を学んでいく。

### 4. 絵本での規範意識の育成について

絵本での規範意識の育成は、幼児が、自己認識を深め、社会的なルールや価値観を理解するのに有効な手段である。またその実践のためには、絵本の物語性や登場人物を通して、幼児が自発的に規範を学び、それを幼児の日々の生活に活かせるように促進することが重要である。

今後も幼児期における絵本教育は、その用途や活用方法が丁寧に検証されることで、規範意識育成のみならず、幼児たちの学びの多様性・可能性を有していくツールになると言えるだろう。